

「ヒトES細胞の使用に関する指針」に関する新旧対照表

改正案

現行

<p>第二章（定義） 第一条 この指針において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。</p> <p>一 胚（ヒトに關するクローン技術等の規制に関する法律（平成十二年法律第一四十六号）以下「胚」という。）</p> <p>第二章（定義） 第一条 この指針において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。</p> <p>一 胚（ヒトに關するクローン技術等の規制に関する法律（平成十二年法律第一四十六号）以下「胚」という。）</p>	<p>第一条（目的） 「医学及び生物学の発展に大きく貢献する可能性が ある一方、ヒトの生命の萌芽であるヒト胚を使用する ること、ヒトES細胞が、ヒト胚を滅失して樹立さ れたものであり、また、すべての細胞に分化すること 能性があること等、また、すべての細胞に分化すること に、かんがみ、ヒトES細胞の使用に当たり生命倫理 上の観点から遵守すべき基本的な事項を定め、もつ てその適正な実施の確保に資することを目的とする。</p>	<p>第一章 総則</p>	<p>第六章 雑則（第二十条―第二十二条）</p> <p>第五章 雑則（第二十条・第二十一条）</p> <p>第四章 使用の体制（第八条―第十一条）</p> <p>第三章 使用の手続（第十二条―第十七条）</p> <p>第二章 使用の要件等（第五条―第七条）</p> <p>第一章 総則（第一条―第四条）</p> <p>目次</p>
<p>第二章（定義） 第一条 この指針において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。</p> <p>一 胚（ヒトに關するクローン技術等の規制に関する法律（平成十二年法律第一四十六号）以下「胚」という。）</p> <p>第二章（定義） 第一条 この指針において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。</p> <p>一 胚（ヒトに關するクローン技術等の規制に関する法律（平成十二年法律第一四十六号）以下「胚」という。）</p>	<p>第一条（目的） 「医学及び生物学の発展に大きく貢献する可能性が ある一方、ヒトの生命の萌芽であるヒト胚を使用する ること、ヒトES細胞が、ヒト胚を滅失して樹立さ れたものであり、また、すべての細胞に分化すること 能性があること等、また、すべての細胞に分化すること に、かんがみ、ヒトES細胞の使用に当たり生命倫理 上の観点から遵守すべき基本的な事項を定め、もつ てその適正な実施の確保に資することを目的とする。</p>	<p>第一章 総則</p>	<p>第五章 雑則（第二十条・第二十一条）</p> <p>第四章 使用の手続（第十三条―第十九条）</p> <p>第三章 使用の体制（第九条―第十二条）</p> <p>第二章 使用の要件等（第五条―第八条）</p> <p>第一章 総則（第一条―第四条）</p> <p>目次</p>

二 いう。
 する胚を含む。ヒトの胚（ヒトとしての遺伝情報を有する胚を含む。）をいう。

三 当該ヒトES細胞の分裂により生ずる細胞であつて、胚でないもののうち、多能性（内胚葉、中胚葉及び外胚葉の細胞に分化する性質をいう。）を有し、かつ、自己複製能力を維持しているもの又はそれらに類する能力を有することが推定されるものをいう。

四 分化細胞を有しなくつた細胞をいう。ヒトES細胞が分化することにより、その性質を有しなくつた細胞をいう。

五 生殖細胞始原生殖細胞から精子又は卵子に至るまでの細胞をいう。

六 樹立。特定の性質を有する細胞を作成すること
 をいう。

七 第一種樹立法第二條第一項第六号に規定するヒト受精卵を用いてヒトES細胞を樹立すること
 （次号に掲げるものを除く。）をいう。

八 第二種樹立法第二條第一項第十号に規定する人クローン胚を作成し、作成した人クローン胚を用いてヒトES細胞を樹立すること
 をいう。

九 樹立機関。ヒトES細胞を樹立する機関をいう。

十 分配機関及び第三者に分配することを目的として
 分配をし、維持管理をする機関をいう。

十一 使用機関。ヒトES細胞を使用する機関をいう。

十二 使用計画。使用機関が行うヒトES細胞の使用
 に関する計画をいう。

十三 使用責任者。使用機関において、ヒトES細胞

二 いう。
 する胚を含む。ヒトの胚（ヒトとしての遺伝情報を有する胚を含む。）をいう。

三 ヒト受精卵をいう。

四 人クローン胚。法第二條第一項第十号に規定する人クローン胚をいう。

五 当該ヒトES細胞の分裂により生ずる細胞であつて、胚でないもののうち、多能性（内胚葉、中胚葉及び外胚葉の細胞に分化する性質をいう。）を有し、かつ、自己複製能力を維持しているもの又はそれらに類する能力を有することが推定されるものをいう。

六 分化細胞を有しなくつた細胞をいう。ヒトES細胞が分化することにより、その性質を有しなくつた細胞をいう。

七 樹立。特定の性質を有する細胞を作成すること
 をいう。

八 第一種樹立。ヒト受精卵を用いてヒトES細胞
 を樹立すること（次号に掲げるものを除く。）を
 いう。

九 第二種樹立。人クローン胚を作成し、作成した
 人クローン胚を用いてヒトES細胞を樹立するこ
 とをいう。

十 樹立機関。ヒトES細胞を樹立する機関をいう。

十一 分配機関及び第三者に分配することを目的とし
 て分配をし、維持管理をする機関をいう。

十二 使用機関。ヒトES細胞を使用する機関をい
 う。

十三 使用計画。使用機関が行うヒトES細胞の使
 用に関する計画をいう。

十四 使用責任者。使用機関において、ヒトES細胞

胞の使用を総括する立場にある者をいう。

(適用の範囲)

第三条 ヒトES細胞の使用(基礎的研究に係るものに限り)は、この指針に定めるところにより適切に実施されるものとする。

(ヒトES細胞に対する配慮)

第四条 ヒトES細胞を取り扱う者は、ヒトES細胞が、人の生命の萌芽であるヒト胚を滅失させて樹立されたものであること及びすべての細胞に分化する可能性があることに配慮し、誠実かつ慎重にヒトES細胞の取扱いを行うものとする。

第二章 使用の要件等

(使用の要件)

第五条 第一種樹立により得られたヒトES細胞の使用は、次に掲げる要件を満たす場合に限り、行うことができるものとする。

一 次のいずれかに資する基礎的研究を目的として

イ ヒトの発生、分化及び再生機能の解明

ロ 新しい診断法、予防法若しくは治療法の開発

二 又は医薬品等の開発

三 ヒトES細胞を使用することが前号に定める研究において科学的合理性及び必要性を有すること

2 第二種樹立により得られたヒトES細胞の使用は、次に掲げる要件を満たす場合に限り、行うことができるものとする。

一 特定胚の取扱いに関する指針(平成二十一年文

部科学省告示第八十三号)第九條第二項に規定す

二 基礎的研究を目的として行うことが前号に定める研

二 ヒトES細胞を使用することが前号に定める研

胞の使用を総括する立場にある者をいう。

(適用の範囲)

第三条 ヒトES細胞の使用(基礎的研究に係るものに限り)は、この指針に定めるところにより適切に実施されるものとする。

(ヒトES細胞に対する配慮)

第四条 ヒトES細胞を取り扱う者は、ヒトES細胞が、人の生命の萌芽であるヒト胚を滅失させて樹立されたものであること及びすべての細胞に分化する可能性があることに配慮し、誠実かつ慎重にヒトES細胞の取扱いを行うものとする。

第二章 使用の要件等

(使用の要件)

第五条 第一種樹立により得られたヒトES細胞の使用は、次に掲げる要件を満たす場合に限り、行うこと

一 次のいずれかに資する基礎的研究を目的として

イ ヒトの発生、分化及び再生機能の解明

ロ 新しい診断法、予防法若しくは治療法の開発

二 又は医薬品等の開発

三 ヒトES細胞を使用することが前号に定める研究において科学的合理性及び必要性を有すること

2 第二種樹立により得られたヒトES細胞の使用は、次に掲げる要件を満たす場合に限り、行うことができるものとする。

一 特定胚の取扱いに関する指針(平成二十一年文

部科学省告示第八十三号)第九條第二項に規定す

二 基礎的研究を目的として行うことが前号に定める研

二 ヒトES細胞を使用することが前号に定める研

第七條 (ヒトES細胞の分配等) 使用機関は、ヒトES細胞の分配又は譲渡を	<p>第六條 (行つてはならない行為) 一 ヒトES細胞を使用して作成した胚の人又は動物の胎内への移植その他の方法によりヒトES細胞から個体を生成すること。 二 ヒト胚へヒトES細胞を導入すること。 三 ヒトの胎児へヒトES細胞を導入すること。 四 ヒトES細胞から生殖細胞の作成を行う場合には、当該生殖細胞を用いてヒト胚を作成すること。</p>	3 使用に供されるヒトES細胞は、次に掲げるものに限るものとする。	<p>一 ヒトES細胞の樹立及び分配に関する指針(平成二十一年文部科学省告示第百五十六号)で定める要件を満たして樹立されたヒトES細胞(生殖細胞の作成の用に供される場合には、生殖細胞の作成を行うことについてのインフォームド・コンセントを受けていることその他の同指針で定める要件を満たして樹立されたヒトES細胞)</p> <p>二 外国で樹立されたヒトES細胞で、ヒトES細胞の樹立及び分配に関する指針と同等の基準に基づき樹立されたものと認められるもの(生殖細胞の作成の用に供される場合には、同指針と同等の基準に基づき樹立されたものと認められ、かつ、当該外国における法令又はこれに類するガイドライン及びヒトES細胞の提供に関する条件においてヒトES細胞から生殖細胞の作成を行わないこととされていないもの)</p>
		<p>三 使用に供されるヒトES細胞は、次に掲げるものに限るものとする。</p> <p>四 前項の規定にかかわらず、文部科学大臣がヒトES細胞の樹立及び分配に関する指針と同等の基準に基づき樹立されたものであると認める場合には、使用機関は、海外から分配を受けたヒトES細胞を使用することができるとする。</p>	

第七條 (ヒトES細胞の分配等) 使用機関は、ヒトES細胞の分配又は譲渡を	<p>第六條 (行つてはならない行為) 一 ヒトES細胞を使用して作成した胚の人又は動物の胎内への移植その他の方法によりヒトES細胞から個体を生成すること。 二 ヒト胚へヒトES細胞を導入すること。 三 ヒトの胎児へヒトES細胞を導入すること。 四 ヒトES細胞から生殖細胞の作成を行うこと。</p>	3 使用に供されるヒトES細胞は、次に掲げるものに限るものとする。	<p>一 ヒトES細胞の樹立及び分配に関する指針(平成二十一年文部科学省告示第百五十六号)で定める要件を満たして樹立されたヒトES細胞(生殖細胞の作成の用に供される場合には、生殖細胞の作成を行うことについてのインフォームド・コンセントを受けていることその他の同指針で定める要件を満たして樹立されたヒトES細胞)</p> <p>二 外国で樹立されたヒトES細胞で、ヒトES細胞の樹立及び分配に関する指針と同等の基準に基づき樹立されたものと認められるもの(生殖細胞の作成の用に供される場合には、同指針と同等の基準に基づき樹立されたものと認められ、かつ、当該外国における法令又はこれに類するガイドライン及びヒトES細胞の提供に関する条件においてヒトES細胞から生殖細胞の作成を行わないこととされていないもの)</p>
		<p>三 使用に供されるヒトES細胞は、次に掲げるものに限るものとする。</p> <p>四 前項の規定にかかわらず、文部科学大臣がヒトES細胞の樹立及び分配に関する指針と同等の基準に基づき樹立されたものであると認める場合には、使用機関は、海外から分配を受けたヒトES細胞を使用することができるとする。</p>	

してはならない。ただし、使用機関において遺伝子の導入その他の方法により加工されたヒトES細胞を当該使用機関が分配又は譲渡する場合については、この限りでない。

第三章 使用の体制

第八条（使用機関の基準等）
使用機関は、次に掲げる要件を満たすものとする。

- 一 ヒトES細胞を使用するに足りる十分な施設、人員及び技術的能力を有すること。
- 二 ヒトES細胞の使用について遵守すべき技術的及び倫理的な事項に関する規則が定められていること。
- 三 ヒトES細胞の使用に関する技術的能力及び倫理的な認識を向上させるための教育及び研修（以下「教育研修」という。）を実施するための計画（以下「教育研修計画」という。）が定められていること。
- 二 作成し、これを保存するものとする。
- 三 提出、調査の受入れその他文部科学大臣が必要と認められる措置に協力するものとする。

第九条（使用機関の長）
使用機関の長は、次に掲げる業務を行うものとする。

してはならない。ただし、使用機関において遺伝子の導入その他の方法により加工されたヒトES細胞を当該使用機関が分配又は譲渡する場合については、この限りでない。

第三章 使用の体制

第九条（使用機関の基準等）
使用機関は、次に掲げる要件を満たすものとする。

- 一 ヒトES細胞を使用するに足りる十分な施設、人員及び技術的能力を有すること。
- 二 ヒトES細胞の使用について遵守すべき技術的及び倫理的な事項に関する規則が定められていること。
- 三 ヒトES細胞の使用に関する技術的能力及び倫理的な認識を向上させるための教育及び研修（以下「教育研修」という。）を実施するための計画（以下「教育研修計画」という。）が定められていること。
- 二 作成し、これを保存するものとする。
- 三 提出、調査の受入れその他文部科学大臣が必要と認められる措置に協力するものとする。

第八条（分化細胞の取扱い）
合には、当該分化細胞がヒトES細胞に由来するものであることを譲渡先に通知するものとする。

第十条（使用機関の長）
使用機関の長は、次に掲げる業務を行うものとする。

<p>三 画変更書」といふ。細胞の使用を総括し、及び使用計画を</p>	<p>二 前号の検討の結果に基づき、使用計画を記載し</p>	<p>一 ヒトES細胞の使用に関する事項については、その結果を把握</p>
<p>三 画変更書」といふ。細胞の使用を総括し、及び使用計画を</p>	<p>二 前号の検討の結果に基づき、使用計画を記載し</p>	<p>一 ヒトES細胞の使用に関する事項については、その結果を把握</p>

<p>三 画変更書」といふ。細胞の使用を総括し、及び使用計画を</p>	<p>二 前号の検討の結果に基づき、使用計画を記載し</p>	<p>一 ヒトES細胞の使用に関する事項については、その結果を把握</p>
<p>三 画変更書」といふ。細胞の使用を総括し、及び使用計画を</p>	<p>二 前号の検討の結果に基づき、使用計画を記載し</p>	<p>一 ヒトES細胞の使用に関する事項については、その結果を把握</p>

<p>を保管するものとする。</p>	<p>3 よって設置された倫理審査委員会の記録を作成し、これを 保管するものとする。</p>	<p>2 使用機関の規定にかかわらず、使用機関の長は、他の 使用機関の倫理審査委員会に代えることができる。</p>	<p>第十一條 (倫理審査委員会)</p>	<p>2 使用する者は、一の使用計画ごとに一名とし、ヒ トES細胞に関する倫理的な認識並びに十分な専門 的知識及び技術的能力を有するとともに前項各号に 掲げる業務を的確に実施できる者とする。</p>	<p>六 使用するに当たっては、必要となる措置を講ずること。 使用するに当たっては、必要となる措置を講ずること。 使用するに当たっては、必要となる措置を講ずること。</p>	<p>四 実施される研究者に対し必要な指示をすること。 実施される研究者に対し必要な指示をすること。</p>
<p>を保管するものとする。</p>	<p>3 よって設置された倫理審査委員会の記録を作成し、これを 保管するものとする。</p>	<p>2 使用機関の規定にかかわらず、使用機関の長は、他の 使用機関の倫理審査委員会に代えることができる。</p>	<p>第十二條 (倫理審査委員会)</p>	<p>2 使用する者は、一の使用計画ごとに一名とし、ヒ トES細胞に関する倫理的な認識並びに十分な専門 的知識及び技術的能力を有するとともに前項各号に 掲げる業務を的確に実施できる者とする。</p>	<p>七 使用するに当たっては、必要となる措置を講ずること。 使用するに当たっては、必要となる措置を講ずること。 使用するに当たっては、必要となる措置を講ずること。</p>	<p>四 実施される研究者に対し必要な指示をすること。 実施される研究者に対し必要な指示をすること。</p>

<p>2 画の実施について使用機 のとの使用計画書には、次に掲げる事項を記載するもの</p>	<p>第十二条（使用機 の長の了承）</p>	<p>第四章 使用の手続</p>	<p>5 倫理審査委員会の運営に当たっては、前項第六号 に規定する規則により非公開とすることが定められ ている事項を除き、議事の内容について公開するもの とする。</p>	<p>4 倫理審査委員会は、次に掲げる要件を満たすもの とする。</p> <p>一 使用計画の科学的妥当性及び倫理的妥当性を総 合的に審査できるよう、生物学、医学及び法律に 関する専門家、生命倫理に関する意見を述べるに ふさわしい識見を有する者並びに一般の立場に立 って意見を述べられる者から構成されていること</p> <p>二 当該使用機関が属する法人に所属する者以外の 者が二名以上含まれていること。</p> <p>三 男性及び女性がそれぞれ二名以上含まれている こと。</p> <p>四 当該使用計画を実施する研究者、使用責任者と の間、利害関係を有する者及び使用責任者の三親 等以内の親族が審査に参画しないこと。</p> <p>五 倫理審査委員会の活動の自由及び独立が保障さ れるよう適切な運営手続が定められていないこと。</p> <p>六 倫理審査委員会の構成、組織及び運営並びにそ の議事の内容の公開その他使用計画の審査に必要 な手続に関する規則が定められ、かつ、当該規則 が公開されていること。</p>
--	----------------------------	------------------	---	--

<p>2 前項の使用計画書には、次に掲げる事項を記載す るものとする。</p>	<p>第十三条（使用機 の長の了承）</p>	<p>第四章 使用の手続</p>	<p>5 倫理審査委員会の運営に当たっては、前項第六号 に規定する規則により非公開とすることが定められ ている事項を除き、議事の内容について公開するもの とする。</p>	<p>4 倫理審査委員会は、次に掲げる要件を満たすもの とする。</p> <p>一 使用計画の科学的妥当性及び倫理的妥当性を総 合的に審査できるよう、生物学、医学及び法律に 関する専門家、生命倫理に関する意見を述べるに ふさわしい識見を有する者並びに一般の立場に立 って意見を述べられる者から構成されていること</p> <p>二 属する者以外の者が二名以上含まれていること。 所属する者以外の者が二名以上含まれていること。</p> <p>三 男性及び女性がそれぞれ二名以上含まれている こと。</p> <p>四 当該使用計画を実施する研究者、使用責任者と の間、利害関係を有する者及び使用責任者の三親 等以内の親族が審査に参画しないこと。</p> <p>五 倫理審査委員会の活動の自由及び独立が保障さ れるよう適切な運営手続が定められていないこと。</p> <p>六 倫理審査委員会の構成、組織及び運営並びにそ の議事の内容の公開その他使用計画の審査に必要 な手続に関する規則が定められ、かつ、当該規則 が公開されていること。</p>
---	----------------------------	------------------	---	---

<p>2 類を前項の文部科学大臣に提出するものは、次に掲げる書</p>	<p>第十四条 (文部科学大臣への届出) 第十四条 使用機関の長は、使用計画の実施を了承するに当たっては、前条の手続の終了後、あらかじめ当該使用計画の実施について文部科学大臣に届け出るものとする。</p>	<p>第十三条 (倫理審査委員会の意見聴取) 第十三条 使用機関の長は、前条第一項の規定に基づき、使用責任者から使用計画の実施の了承を求められたときは、その妥当性について倫理審査委員会の意見を求めるとともに、当該意見に基づき使用計画のこの指針に対する適合性を確認するものとする。</p>	<p>十 一の 受ける場合における当該ヒトES細胞の樹立及び譲</p>	<p>十 九 使用機関の基準に関する説明</p>	<p>十 九 使用機関の基準に関する説明</p>	<p>八 E S細胞株の名称</p>	<p>七 六 五 使用の方法及び期間</p>	<p>四 研究業績、教育研修の受講歴及び使用計画において果たす役割</p>	<p>三 の 使用責任者の氏名、略歴、研究業績、教育研修</p>	<p>二 の 長の氏名</p>	<p>一 使用計画の名称及びその所在地並びに使用機関の名称</p>
-------------------------------------	---	--	-------------------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------	------------------------	---------------------------------------	----------------------------------	-----------------	-----------------------------------

<p>2 類を前項の文部科学大臣に提出するものは、次に掲げる書</p>	<p>第十五条 (文部科学大臣への届出) 第十五条 使用機関の長は、使用計画の実施を了承するに当たっては、前条の手続の終了後、あらかじめ当該使用計画の実施について文部科学大臣に届け出るものとする。</p>	<p>第十四条 (倫理審査委員会の意見聴取) 第十四条 使用機関の長は、前条第一項の規定に基づき、使用責任者から使用計画の実施の了承を求められたときは、その妥当性について倫理審査委員会の意見を求めるとともに、当該意見に基づき使用計画のこの指針に対する適合性を確認するものとする。</p>	<p>十 一の 受ける場合における当該ヒトES細胞の樹立及び譲</p>	<p>十 九 使用機関の基準に関する説明</p>	<p>十 九 使用機関の基準に関する説明</p>	<p>八 E S細胞株の名称</p>	<p>七 六 五 使用の方法及び期間</p>	<p>四 研究業績、教育研修の受講歴及び使用計画において果たす役割</p>	<p>三 の 使用責任者の氏名、略歴、研究業績、教育研修</p>	<p>二 の 長の氏名</p>	<p>一 使用計画の名称及びその所在地並びに使用機関の名称</p>
-------------------------------------	---	--	-------------------------------------	--------------------------	--------------------------	--------------------	------------------------	---------------------------------------	----------------------------------	-----------------	-----------------------------------

<p>5 かに、使用計画変更書を添付して、その旨を倫理審</p>	<p>4 号に掲げる事項を変更しようとするときは、あらかじめ</p>	<p>3 事項を届け出るときは、速やかに、その旨を文部科</p>	<p>2 かに、使用計画変更並びに当該変更に係る倫理審</p>	<p>。更のこの指針に対する適合性を確認するものとす</p>	<p>第十五条（使用計画の変更） 三号及び第五号から第十号までに掲げる事項を変更</p>	<p>3 及びヒトES細胞の使用に関する規則の写し</p>	<p>四 及びヒトES細胞の使用に関する規則の写し</p>	<p>三 倫理審査委員会に関する事項を記載した書類及</p>	<p>二 示す書類</p>	<p>一 使用計画書</p>
----------------------------------	------------------------------------	----------------------------------	---------------------------------	--------------------------------	--	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	---------------	----------------

<p>5 かに、使用計画書を添付して、その旨を倫理審査委</p>	<p>4 号に掲げる事項を変更しようとするときは、あらかじめ</p>	<p>3 事項を届け出るときは、速やかに、その旨を文部科</p>	<p>2 かに、使用計画変更並びに当該変更に係る倫理審</p>	<p>。更のこの指針に対する適合性を確認するものとす</p>	<p>第十六条（使用計画の変更） 三号及び第五号から第十号までに掲げる事項を変更</p>	<p>3 及びヒトES細胞の使用に関する規則の写し</p>	<p>四 及びヒトES細胞の使用に関する規則の写し</p>	<p>三 倫理審査委員会に関する事項を記載した書類及</p>	<p>二 示す書類</p>	<p>一 使用計画書</p>
----------------------------------	------------------------------------	----------------------------------	---------------------------------	--------------------------------	--	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	---------------	----------------

査委員会に報告するとともに、文部科学大臣に届け出るものとする。

(進行状況の報告)

第十六条 使用責任者は、ヒトES細胞の使用の進行状況を、使用機関の長及び倫理審査委員会に随時報告するものとする。

2 生殖細胞の作成を行う使用機関の使用責任者は、前項の報告に加え、少なくとも毎年一回、生殖細胞の作成状況を記載した生殖細胞作成状況報告書を作成し、使用機関の長に提出するものとする。

3 使用機関の長は、前項の生殖細胞作成状況報告書の提出を受けたときは、速やかに、その写しを倫理審査委員会及び文部科学大臣に提出するものとする。

(ヒトES細胞の使用の終了)

第十七条 使用責任者は、ヒトES細胞の使用を終了したときは、速やかに、残余のヒトES細胞を、当該ヒトES細胞の分配をした樹立機関若しくは分配機関との合意に基づき廃棄し、又はこれらの機関に返還し若しくは譲り渡すとともに、使用の結果を記載したヒトES細胞使用終了報告書を作成し、使用機関の長に提出するものとする。

2 使用機関の長は、前項のヒトES細胞使用終了報告書の提出を受けたときは、速やかに、その写しを当該ヒトES細胞の分配をした樹立機関又は分配機関、倫理審査委員会及び文部科学大臣に提出するものとする。

第五章 分化細胞の取扱い等

(分化細胞の取扱い)

第十八条 使用機関は、作成した分化細胞を譲渡する場合には、当該分化細胞がヒトES細胞に由来する

員会に報告するとともに、文部科学大臣に届け出るものとする。

(進行状況の報告)

第十七条 使用責任者は、ヒトES細胞の使用の進行状況を、使用機関の長及び倫理審査委員会に随時報告するものとする。

(使用計画の終了)

第十八条 使用責任者は、使用計画を終了したときは、速やかに、残余のヒトES細胞を、当該ヒトES細胞の分配をした樹立機関若しくは分配機関との合意に基づき廃棄し、又はこれらの機関に返還し若しくは譲り渡すとともに、使用の結果を記載した書類を作成し、使用機関の長に提出するものとする。

2 使用機関の長は、前項の書類の提出を受けたときは、速やかに、その写しを当該ヒトES細胞の分配をした樹立機関又は分配機関、倫理審査委員会及び文部科学大臣に提出するものとする。

<p>第十九条 作成した生殖細胞をヒトES細胞の使用の終了後に引き続き使用する機関は、使用機関とみなしてこの指針を適用する。この場合において、第五条第二項及び第三項、第六条第一号から第三号まで、第七条、第八条第一項第一号及び第二項、第十二条第一項、第十三条、第十四条、第十六条第一項並</p>	<p>(ヒトES細胞の使用の終了後における生殖細胞の取扱い)</p>	<p>5 使用機関の長は、第三項の了承をしたときは、速やかに、その旨を倫理審査委員会及び文部科学大臣に報告するものとする。</p>	<p>4 使用機関の長は、前項の了承をするに当たっては、作成した生殖細胞の譲渡が第二項の規定に適合していることを確認するものとする。</p>	<p>3 前項の規定に基づき使用機関が生殖細胞を譲渡しようとするときは、当該使用機関の使用責任者は、あらかじめ、当該使用機関の長の了承を求めらるものとする。</p>	<p>2 生殖細胞の作成を行う使用機関は、作成した生殖細胞を譲渡する場合には、前項の通知を行うほか、当該生殖細胞の取扱いについて、譲渡先との契約その他の方法において次に掲げる事項が確保されることを確認しなければならない。</p> <p>一 生殖細胞は、次のいずれかに資する基礎的研究に用いられること。</p> <p>イ ヒトの発生、分化及び再生機能の解明</p> <p>ロ 新しい診断法、予防法若しくは治療法の開発又は医薬品等の開発</p> <p>二 生殖細胞を用いてヒト胚を作成しないこと。</p> <p>三 生殖細胞を他の機関に譲渡しないこと。</p> <p>四 生殖細胞を譲渡した機関が、前各号に掲げる生殖細胞の取扱いの状況について、必要に応じ、譲渡先から報告を求めることができること。</p>	<p>2 ものであることを譲渡先に通知するものとする。</p> <p>生殖細胞の作成を行う使用機関は、作成した生殖細胞を譲渡する場合には、前項の通知を行うほか、当該生殖細胞の取扱いについて、譲渡先との契約その他の方法において次に掲げる事項が確保されることを確認しなければならない。</p> <p>一 生殖細胞は、次のいずれかに資する基礎的研究に用いられること。</p> <p>イ ヒトの発生、分化及び再生機能の解明</p> <p>ロ 新しい診断法、予防法若しくは治療法の開発又は医薬品等の開発</p> <p>二 生殖細胞を用いてヒト胚を作成しないこと。</p> <p>三 生殖細胞を他の機関に譲渡しないこと。</p> <p>四 生殖細胞を譲渡した機関が、前各号に掲げる生殖細胞の取扱いの状況について、必要に応じ、譲渡先から報告を求めることができること。</p>
--	------------------------------------	---	--	--	--	--

びに第十七条の規定は適用せず、第五条第一項、第八條（第一項第一号及び第二項を除く。以下同じ。）、第九條第一項及び第十一條の規定は、第五條第一項中「第一種樹立により得られたヒトES細胞」とあるのは「ヒトES細胞から作成したヒトES細胞」と、同項第二号、第八條、第九條第一項及び第十條中「ヒトES細胞」とあるのは「ヒトES細胞から作成した生殖細胞」と、第八條第一項第二号中「技術的及び倫理的な」とあるのは「倫理的な」と、同項第三号中「技術的能力及び倫理的な」とあるのは「倫理的な」と、第十條第二項中「並びに十分な専門的知識及び技術的能力」とあるのは「及び十分な専門的知識」とする。

2 前項の規定により使用機関とみなされる機関の使用責任者は、作成した生殖細胞の使用を終了したときは、速やかに、当該生殖細胞を廃棄するとともに、当該生殖細胞の使用の結果を記載した生殖細胞使用終了報告書を作成し、当該機関の長に提出するものとする。

3 前項の生殖細胞使用終了報告書の提出を受けた機関の長は、速やかに、その写しを倫理審査委員会及び文部科学大臣に提出するものとする。

第六章 雑則

（研究成果の公開）

2 第二十条 ヒトES細胞の使用により得られた研究成果は、原則として公開するものとする。研究成果を公開する場合には、当該ヒトES細胞の使用がこの指針に適合して行われたことを明示するものとする。

（研究成果の公開）

2 第十九条 ヒトES細胞の使用により得られた研究成果は、原則として公開するものとする。研究成果を公開する場合には、当該ヒトES細胞の使用がこの指針に適合して行われたことを明示するものとする。

第五章 雑則

<p>第二十二條 文部科学大臣は、ヒトES細胞及びヒトES細胞から作成した生殖細胞の使用がこの指針に定める基準に適合していないと認めるときは、その旨を公表するものとする。</p>	<p>第二十一條 文部科学大臣は、ヒトES細胞の使用が、医療及びその関連分野と密接な関係を持つことにかんがみ、情報の提供を行う等厚生労働大臣及び経済産業大臣と密接な連携を図るものとする。</p> <p>(関係行政機関との連携)</p>
---	---

<p>第二十一條 文部科学大臣は、ヒトES細胞の使用がこの指針に定める基準に適合していないと認めるときは、その旨を公表するものとする。</p>	<p>第二十條 文部科学大臣は、ヒトES細胞の使用が、医療及びその関連分野と密接な関係を持つことにかんがみ、情報の提供を行う等厚生労働大臣及び経済産業大臣と密接な連携を図るものとする。</p> <p>(関係行政機関との連携)</p>
---	--